

# 備後を代表する名産品作りが活発化

## もみじ饅頭に並ぶ土産物は出るか!?

備後地区の新名物を開発する動きが活発化している。福山市鞆町の保命酒や田尻町のアンズ、新涯町のクワイや沼隈町のブドウなどを原材料に、福山発の特産品作りには、福山物産協会（児玉達朗会長）こだま食品（株）会長）や任意団体・備後特産品研究会（中島基晴会長）（株）中島商店専務）などが積極的だ。広島県の土産物は（株）にしき堂（広島市）の「もみじ饅頭」が定番で備後地区への旅行者はこれを購入するケースが多い。その中、販売店などによると、この2団体加盟企業が取り扱う商品のシェアも拡大傾向という。福山の土産物市場や各団体の動きなどを取材した。

取材 高橋和孝

### もみじ饅頭が23%を占める

JR福山駅構内で土産物店「おみやげ街道福山」（藤川照子店長、電084・921・4930）を運営する（株）ジェイアールサービズネット岡山福山支店（福山市三之丸町30-1、小迫晴男支店長、電0927・3007）によると、一番人気はやはり「もみじ饅頭」で、土産品部門の売上げの23%を占めるといふ。単品でも、もみじ饅頭の売れ行きは良く、1週間で2千個ほど

の販売量を上げるといふ。備後地区の産品では（株）虎屋本舗（福山市）の「桜鯛せんべい」や福利物産（株）（尾道市）の小魚ちりめん、（株）阿藻珍味（福山市）の尾道ラーメン、クラタ食品（福山市）の尾道市の名店の味を再現したラーメン、JA尾道（尾道市）の「因島はっさくゼリー」も売れ筋という。

「さんすて福山」運営の山陽ステーション開発（株）福山支店（福山市三之丸町）も土産物販売では、にしき堂と阿藻珍



JR福山駅構内の土産物店は地元の名産品目当てに観光客や出張客などで賑わう

味の直営店が突出していると話す。いずれも土産物の販売量は上昇傾向で観光客や出張客が増えている現れという。

### 福山らしさを前面に

もみじ饅頭のシェアが大きい中、福山市らしい土産物を作ろうと活発な動きを見せているのが、備後特産品研究会（福山市御船町1-13-5、（株）中島商店内、電084・92

2・4870）。保命酒を原料にしたドレッシングなどを開発、売り出した。

2004年10月、中島基晴会長（41）が中心となり、土産物に関心のある食品業者やグラフィックデザイナーなどに呼びかけ設立した。現会員は10人。「保命酒たい焼き」や「保命酒まんじゅう」など20品あまりを開発し、「おみやげ街道福山」や天満屋福山

店（同市元町）、高速道各サービスエリアや福山ニューキヤッスルホテル（同市三之丸町）のフロントロビーなどで販売し順調な売れ行きという。原材料は福山市の特産品の保命酒やアンズ、クワイ、ブドウなどで福山や府中市、沼隈町や尾道、三原市にある同研究会の下部組織が情報収集、開発にあたる。

商品PRのため、このほど、ネットショップ「備後特産品研究会ネットショップ」(http://bingo-spc.com)を開設し、全国に向けた情報発信も始めた。中島会長は「開発した土産物は商品力があり、先方からの打診により取扱店も増えている。近く、沼隈町産のブドウを使ったお菓子も作りたい」と意欲的だ。



備後特産品研究会は「保命酒たい焼き」や「保命玉」などのヒット商品を生みだした